HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	巻頭言
Author(s)	芒亭
Citation	各務時報, 増刊号
Issue Date	1937-03
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/77647
Type	column
File Information	A018_02_03all_Part47.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

卷頭言

昭和十一年は世界的に隨分事件の多い年であつた。世界の歴史上の大事件と思はれる樣な出來事が幾つも起つて居る。そして其等の事件はどれもこれも未だ落着して居ると云ふ譯ではない。非常時はまだつづいて居る。

此の三月卒業する諸君は此の非常時の社會に、獨立した社會人としての其第一歩を踏み出す譯であるが、諸君の多幸なる發展を禱つて居る者には、ここに特殊の感慨がない譯にはゆかぬ。

然し街上に新聞の號外の鈴が騷がしく鳴り響く日も、實驗室のフラスコの中の藥液は其爲に少しも亂される事なく靜かに加熱されつゝあるであらう。畑の麥も山の檜も其爲に俄かに伸びも縮みもしないであらう。自然を相手にし自然の法則をのみ見つめて居る技術者の取り亂さない悟道の境涯も自からありさうではないか。

忠良なる一國民として誠實なる一技術者として、諸君には諸君の衿恃がある靜かに强く足取つて行くがよい。（芒亭）